

◎ 敬老会の開催方法を変更して初めての開催であったが、開催方法や内容についての課題・改善点は。

▲ 敬老会の開催方法については、対象者数の急激な増加による会場の確保や自治会役員への負担の問題、近年の酷暑による高齢者の体調面の心配などから、平成30年度から2年間にわたり連合自治会と検討を行い、会場を1か所に集約し、対象者もお祝いの節目の年の方に変更し、連合自治会の協力を得ながら市が主催し実施するように変更した。

令和3年度はコロナ禍で中止となり、令和4年度には感染症対策を行い、初めて新しい方法により開催した。しかし、コロナを心配しての欠席者もあり、出席者数が通常より少なくなっただけで、敬老会本来の規模感は、本年度が初めての経験となる。そのため、出席者数に対する対応は、本年

度からの課題になると考えている。また、課題として、対象者からの出欠確認時に、住所不定での返信や回答がない方の確認方法がある。本年度、回答のない方には、自治会の協力を得て確認を進めているが、自治会役員の負担も考慮した検討が必要である。

敬老会に関して、90歳の次が99歳では、参加できる方は少なくなる。また来年敬老会に行つて頑張ろうという気持ちを持つてもらふことも必要ではないか。



令和5年度敬老会

◎ 分別収集等奨励費、事業課題に「大型スーパーやホームセンターなどの古紙やプラスチックトレーなどの資源物回収が進められ、更にコロナで集団回収が減少したことで市のリサイクル率の低下に繋がる」とあるが、スーパー等でリサイクルされるなら問題がないのではないか。市のリサイクル率の算定方法と推移はどうなっているか。

▲ 今回のリサイクル率の低下は、リサイクル量が減っているのではなく、行政の回収ではない、主に民間で回収されていることによるものであり、悪い意味での低下ではない。リサイクル率の算定方法は、ごみの総回収量に対して、リサイクル品の回収量になり、市が把握できている数字に限る。スーパー等での店頭回収量は含まれていないため、リサイクル率は低下傾向になっている。

ごみ全体をどう減らすのが最終目標である。菊川市内のごみをどう減らし、それをどこまで分別してリサイクルするのかというしっかりとした目標を持ち、ひとつずつ積み上げていくべきだ。

リサイクルは非常に重要だと感じるが、一方であまりにも細かく分別が増えてしまうと、捨てる人の負担が増えてしまうのではないか。あるいは、不法投棄の増加につながる可能性もあり、捨てる人の負担という視点も非常に重要ではないか。

クリーニング店でのハンガーの回収のように、同じものを何回も繰り返し使うリユースということも進めていくべきではないか。